

(案)

フロリルピコキサミド 農薬使用者安全評価書

2026年9月17日

農業資材審議会農薬分科会

農薬使用者安全評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬使用者安全評価部会出席者名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法	5
II. 安全性に係る試験の概要	6
1. 経口吸収率	6
2. 毒性試験の結果概要	9
III. 農薬使用者暴露許容量（AOEL）	10
IV. 急性農薬使用者暴露許容量（AAOEL）	14
V. 暴露量の推計	15
1. 経皮吸収試験	15
2. 圃場における農薬使用者暴露	15
3. 暴露量の推計	15
VI. リスク評価結果	15
評価資料	16

＜経緯＞

令和7年（2025年）5月12日	農業資材審議会への諮問（登録）
令和8年（2026年）9月17日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全 評価部会（第27回）

＜農薬使用者安全評価部会出席者名簿＞

（第27回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
櫻井 裕之	天野 昭子	相崎 健一	小坂 忠司
		石井 雄二	
		藤堂 浩明	
		成田 伊都美	
		元村 淳子	

フロリルピコキサミド

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

1.1 申請者 コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社

1.2 登録名 フロリルピコキサミド
(1*S*)-2,2-ビス(4-フルオロフェニル)-1-メチルエチル-N[(3-アセトキシ-4-メトキシ-2-ピリジル)カルボニル]-L-アラニナート

1.3 一般名 florylpicoxamid (ISO)

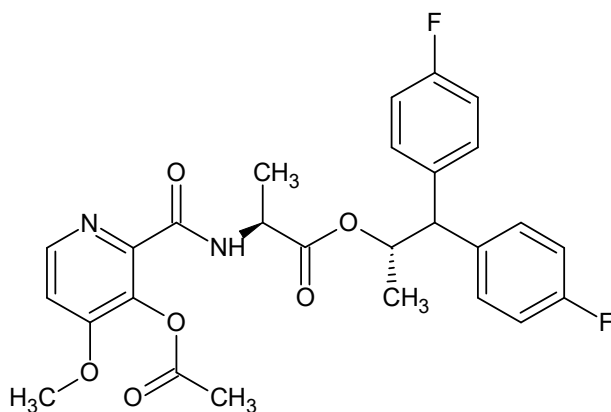
1.4 化学名
IUPAC 名 : (1*S*)-2,2-bis(4-fluorophenyl)-1-methylethyl N[(3-acetoxy-4-methoxy-2-pyridyl)carbonyl]-L-alaninate

CAS 名 : (1*S*)-2,2-bis(4-fluorophenyl)-1-methylethyl N[[3-(acetyloxy)-4-methoxy-2-pyridinyl]carbonyl]-L-alaninate
(CAS No. 1961312-55-9)

1.5 分子式、構造式、分子量

分子式 $C_{27}H_{26}F_2N_2O_6$

構造式



分子量 512.51

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目			純度(%)	試験方法	試験結果	
蒸気圧			98.1	OECD104	<5×10 ⁻⁶ Pa (20 °C) <9×10 ⁻⁶ Pa (25 °C)	
融点			98.1	OECD102	91.0～95.5 °C	
沸点			98.1	OECD103	約150 °Cで分解するため測定不能	
熱安定性			試験省略 (沸点の試験において約150 °Cで分解のため測定不能)			
溶解度	水		98.1	OECD105	4.0 mg/L (20 °C)	
	有機溶媒	ヘプタン	97.1	OECD105	0.19 g/L (20 °C)	
		キシレン			> 250 g/L (20 °C)	
		1,2-ジクロロエタン			> 250 g/L (20 °C)	
		アセトン			> 250 g/L (20 °C)	
		メタノール			> 250 g/L (20 °C)	
		オクタノール			8.3 g/L (20 °C)	
		酢酸エチル			> 250 g/L (20 °C)	
	<i>n</i> -オクタノール/水分分配係数 (log P _{ow})			98.1	OECD107	4.2 (20 °C)
解離定数 (pKa)			98.2	OECD112	pH 4～9 で解離せず、強塩基性条件下で分解するため、測定不能	
加水分解性			99.36及び 99.32	OECD111	半減期 12.7 日(25 °C、pH 4) 半減期 16.7 日(25 °C、pH 7) 半減期 8時間 (25 °C、pH 9)	
水中光分解性			99.3及び99.1	OECD316	半減期 0.117 日 (pH 7、25±1 °C、303 W/m ² 、290～800 nm)	
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル			98.1	極大吸収波長 (nm)		
				吸光度		
				モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)		
				中性		
				220	0.369	21100
				265	0.711	4070
				271	0.649	3710
				酸性		
				244	1.365	7810
				265	1.113	6370
				271	0.927	5300
				アルカリ性		
				266	0.763	4360
				272	0.814	4660
				343	0.207	11800

3. 申請に係る情報

新規有効成分フロリルピコキサミドを含む製剤の登録申請を令和 5 年（2023 年）12 月 8 日に受けた。

フロリルピコキサミドは、令和 8 年（2026 年）9 月現在、豪州、カナダ及び米国で登録されている。

4. 作用機作

フロリルピコキサミドは、ピコリナミド骨格を持ち、cytochrome b タンパク質の Qi サイトに作用する。植物又は糸状菌の体内で脱アセチル体に代謝分解され、その分解物が特に高い殺菌活性を持つことが明らかとなっている。

（FRAC 分類：21※）

※参照：<https://www.frac.info/>

5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法

評価対象となるフロリルピコキサミドを含有する農薬 3 製剤について、適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法を別添 1 に示す。

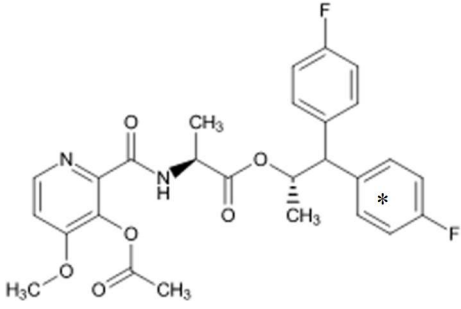
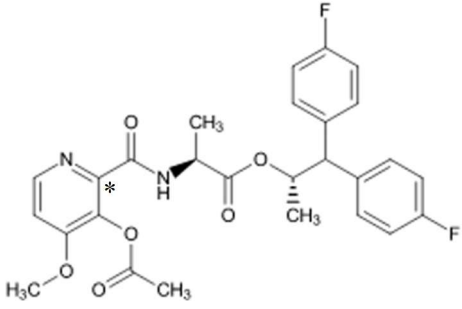
Ⅱ．安全性に係る試験の概要

フロリルピコキサミドは、令和 8 年（2026 年）7 月 23 日、内閣府食品安全委員会において、食品健康影響評価（資料 1）がなされている。

1. 経口吸収率

フロリルピコキサミドのフェニル環の炭素を ^{14}C で均一に標識したもの（以下「[phe- ^{14}C]フロリルピコキサミド」という。）及びフロリルピコキサミドのピリジン環の 2 位の炭素を ^{14}C で標識したもの（以下「[pyr- ^{14}C]フロリルピコキサミド」という。）（表 1）を用いた動物代謝試験による動物体内への吸収率（経口吸収率）の概要をまとめた。

表 1 標識化合物

略称	[phe- ^{14}C]フロリルピコキサミド	[pyr- ^{14}C]フロリルピコキサミド
構造式		
標識位置	フェニル環の炭素を ^{14}C で均一に標識	ピリジン環の2位の炭素を ^{14}C で標識

① 尿、糞及び呼気中排泄（単回経口）（資料 2、GLP）

SD ラット（一群雌雄各 4 匹）に[phe- ^{14}C]フロリルピコキサミド若しくは [pyr- ^{14}C]フロリルピコキサミドを 25 mg/kg 体重（以下、「低用量」という。）若しくは 250 mg/kg 体重（以下、「高用量」という。）で単回経口投与し、薬物動態試験が実施された。

薬物動態試験の投与後 168 時間における尿、糞及び呼気中排泄率は表 2 に示されている。

単回経口投与後の排泄は低用量投与群及び高用量投与群とも速やかで、そのほとんどは投与後 48 時間以内に主に糞中に排泄された。[pyr- ^{14}C]フロリルピコキサミドの低用量投与群において呼気中への排泄はごく僅かであった。

本試験より得られた尿、ケージ洗浄液、呼気の合計より、単回投与後 168 時間の吸収率は、低用量群で 8.06～29.6%、高用量群で 14.3～29.3%であると算出された。

表 2 薬物動態試験の投与後 168 時間までの尿、糞及び呼気中排泄率 (%TAR)

標識体	[phe- ¹⁴ C]フロリルピコキサミド		[pyr- ¹⁴ C]フロリルピコキサミド			
	25 mg/kg 体重		25 mg/kg 体重		250 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌
尿	7.14	12.4	15.1	24.5	9.80	17.5
糞	85.2	80.1	73.3	55.8	77.6	58.8
ケージ洗浄液	0.919	1.99	2.87	5.09	4.47	11.8
カーカス及び組織 ^a	0.693	0.112	0.127	0.0063	0.0363	0.0164
呼気	-	-	0.185	0.0318	-	-
経口吸収率 ^b	8.06	14.4	18.2	29.6	14.3	29.3
総回収率	94.0	94.6	91.7	85.3	91.9	88.1

表の値は 4 匹の平均値

- : 未測定

^a : 消化管内容物を含む

^b : 尿、ケージ洗浄液、呼気の合計

② 胆汁中排泄 (資料 3、GLP)

胆管カニューレを挿入した SD ラット (対照群 : 雌雄各 1 匹、処理群 : 一群雌雄各 4 匹) に [phe-¹⁴C]フロリルピコキサミド又は [pyr-¹⁴C]フロリルピコキサミドを低用量又は高用量で単回経口投与した胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 48 時間における胆汁、尿及び糞中排泄率は表 3 に示されている。

投与放射能は主に糞中に排泄された。胆汁中排泄率は 4.35%TAR～21.3%TAR で、高用量投与群では低下が認められた。胆汁中への排泄割合に性別による差は認められなかった。

本試験より得られた胆汁、尿、ケージ洗浄液、全血、消化管及びカーカスの合計より、単回投与後 48 時間の吸収率は、低用量群で 19.3～23.9%、高用量群で 9.03～11.6%であると算出された。

表 3 投与後 48 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率 (%TAR)

標識体	[phe- ¹⁴ C]フロリルピ コキサミド		[pyr- ¹⁴ C]フロリルピコキサミド			
投与群	25 mg/kg 体重		25 mg/kg 体重		250 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌
胆汁	20.5	21.3	12.5	11.3	4.35	5.36
尿	1.46	2.34	6.34	9.47	4.09	5.92
ケージ洗浄液	0.945	0.0638	0.402	1.53	0.106	0.274
残存飼料	0.103	0.382	0.0592	0.548	0.101	1.76
糞	63.9	67.7	73.6	56.0	76.0	68.5
全血	0.00434	0.00333	0.000767	0.00162	0.0032	0.00049
消化管	0.00462	0.00826	0.0017	0.00917	0.00700	0.00381
カーカス	0.163	0.139	0.096	0.148	0.470	0.0846
消化管内容物	0.393	0.312	0.0774	0.339	0.610	0.158
経口吸収率*	23.1	23.9	19.3	22.5	9.03	11.6
総回収率	87.4	92.1	93.1	79.3	85.6	82.0

表の値は 4 匹の平均値

*：胆汁、尿、ケージ洗浄液、全血、消化管及びカーカスの合計

2. 毒性試験の結果概要

各種毒性試験（資料 4～39）の結果は、資料 1（食品安全委員会農薬評価書）の II.安全性に係る試験の概要を参照した。

フロリルピコキサミドの急性経口毒性試験の LD₅₀ はラットで >2000 mg/kg 体重であった。経皮、吸入のいずれの投与経路においても急性毒性は弱く（LD₅₀（経皮）：>2000 mg/kg 体重、LC₅₀（吸入）：>5.48 mg/L）、皮膚感作性は認められなかった。

フロリルピコキサミド投与による影響は、主に体重（増加抑制）、消化管（水様便等）及び血液（貧血：ラット）に認められた。発がん性、神経毒性、繁殖能に対する影響、催奇形性、遺伝毒性及び免疫毒性は認められなかった。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量及び最小毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 9.58 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.095 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、フロリルピコキサミドの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性参照用量（ARfD）は設定する必要がないと判断した。

Ⅲ．農薬使用者暴露許容量（AOEL）

急性毒性試験の結果において、経皮又は吸入経路特異的な毒性は見られなかったこと及び農薬としての使用方法から、フロリルピコキサミドの農薬使用者暴露許容量（AOEL）の設定に当たっては、経皮又は吸入経路特異的な毒性を考慮する必要はないと判断した。よって経口投与による短期毒性試験、生殖・発生毒性試験及び神経毒性試験の結果に基づき AOEL を設定する（表 5）。

各試験で得られたフロリルピコキサミドの無毒性量のうち最小値は、ウサギを用いた発生毒性試験の母動物における流産、体重増加抑制等に基づく無毒性量 9.58 mg/kg 体重/日であったことから、これを AOEL の設定根拠とすることが妥当と判断した。

また、最小の無毒性量に近い投与量におけるラットを用いた動物代謝試験の経口吸収率は、胆汁中排泄試験における 25 mg/kg 体重投与群の 19.3～23.9% であったが（表 4）、[pyr-¹⁴C]フロリルピコキサミド 25 mg/kg 体重投与群の雌では総回収率が 79.3%と低かったため、当該結果を除外した。AOEL の設定に当たっては、胆汁中排泄試験における当該群を除いた経口吸収率の算術平均である 22.1%を用いて補正することが妥当であると判断した。

表 4 フロリルピコキサミドを単回経口投与した場合の経口吸収率（%）

標識体	[phe- ¹⁴ C]フロリルピコキサミド		[pyr- ¹⁴ C]フロリルピコキサミド	
投与量	25 mg/kg体重		25 mg/kg体重	
性別	雄	雌	雄	雌
経口吸収率（%）	23.1	23.9	19.3	22.5
総回収率（%）	87.4	92.1	93.1	79.3

表の値は投与後 48 時間の 4 匹の平均値

以上の結果から、ウサギを用いた発生毒性試験の無毒性量 9.58 mg/kg 体重/日を経口吸収率 22.1%により補正し、安全係数 100 で除した 0.021 mg/kg 体重/日を農薬使用者暴露許容量（AOEL）と設定した。

AOEL

0.021 mg/kg 体重/日

（AOEL 設定根拠試験）

発生毒性試験

（動物種）

ウサギ

（期間）

妊娠 7～28 日

（投与方法）

混餌

（無毒性量）

9.58 mg/kg 体重/日

(毒性所見)	母動物：流産、体重増加抑制等
(安全係数)	100
(経口吸収率)	22.1%（ラット）

表 5 AOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/ 日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/ 日)	備考*
ラット	28 日間 反復経口 投与毒性① GLP (資料 10)	0,300,1,000、3,000 ppm ----- 雄：0、24.9、84.0、230 雌：0、26.1、85.2、243	雄：84.0 雌：243	雄：230 雌：－	雄：体重増加抑制、 摂餌量減少等 雌：毒性所見なし
	28 日間 反復経口 投与毒性② 非 GLP (資料 25)	0、1,000、3,000、4,000、 5,000 ppm ----- 雄：0、69.9、206、278、 345 雌：0、75.8、247、320、 355	雄：206 雌：320	雄：278 雌：355	雄：肝細胞肥大、甲 状腺ろ胞細胞肥大 等 雌：体重増加抑制及 び摂餌量減少
	90 日間 反復経口投与 毒性/反復経口 投与神経毒性/ 免疫毒性併合 GLP (資料 8)	0,300,1,000、3,000 ppm ----- 雄：0、18.2、59.4、177 雌：0、18.8、63.0、185	雄：59.4 雌：185	雄：177 雌：－	雄：体重増加抑制、 摂餌量減少等 雌：毒性所見なし (反復経口投与神経毒 性は認められない)
	2 世代繁殖毒性 GLP (資料 31)	雄：0、300、1,000、3,000 ppm 雌：0、300、1,000、4,000 ppm 児動物：0、300、1,000、 3,000/4,000 ppm ¹ ----- P 雄：0、17.5、58.4、179 P 雌：0、19.3～24.5、65.3 ～79.2、255～344 F ₁ 雄：0、19.4、65.3、201 F ₁ 雌：0、18.1～24.8、58.3 ～81.8、248～335	親動物： P 雄：58.4 P 雌：255 F ₁ 雄：65.3 F ₁ 雌：248 児動物： P 雄：58.4 P 雌：65.3 F ₁ 雄：65.3 F ₁ 雌：58.3	親動物： P 雄：179 P 雌：－ F ₁ 雄：201 F ₁ 雌：－ 児動物： P 雄：179 P 雌：255 F ₁ 雄：201 F ₁ 雌：248	親動物 雄：体重増加抑制 雌：毒性所見なし 児動物 雌雄：Hb、Ht 及び MCV 減少 (繁殖能に対する影響 は認められない)
	発生毒性 GLP (資料 33)	0、300、1,000、4,000 ppm ----- 0、21.3、73.1、271 (妊娠 6～21 日混餌投与)	母動物：73.1 胎児：271	母動物：271 胎児：－	母動物：体重減少/増 加抑制及び摂餌量 減少 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められ ない)
	90 日間反復経 口投与毒性 GLP (資料 29)	0、150、500、1,500 ppm ----- 雄：0、19.1、59.7、192 雌：0、21.9、68.3、201	雄：192 雌：68.3	雄：－ 雌：201	雄：毒性所見なし 雌：体重増加抑制及 び摂餌量減少

ウサギ	発生毒性 GLP (資料 35)	0、125、250、750 ppm	母動物：9.58 胎児：25.9	母動物：25.9 胎児：－	母動物：流産、体重 増加抑制等 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められ ない)
		0、4.73、9.58、25.9 (妊娠 7～28 日混餌投与)			
イヌ	90 日間 反復経口投与 毒性 GLP (資料 15)	0、60、150、400	雄：60 雌：150	雄：150 雌：400	雌雄：水様便等

－：最小毒性量は設定されなかった。

*：最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

¹：ラットを用いた 28 日間反復経口毒性試験②において、雄では 4,000 ppm 以上の用量で肝臓重量の有意な増加及び肝細胞肥大が認められたが、雌では 5,000 ppm まで肝臓への影響はみられなかったことから、5,000 ppm 投与群の雄の肝臓重量の変化の程度を考慮し、最高用量は雄で 3,000 ppm、雌で 4,000 ppm と、雌雄で異なる濃度に設定された。最高用量群の雌雄の交配時には、雌雄 1 対 1 で同居させ、交配期間の過剰摂取の可能性を避けるため、同居中の動物にはより低濃度の雄の飼料が給餌された。

IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL)

フロリルピコキサミドの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL) は設定する必要がないと判断した。

AAOEL

設定の必要なし

V. 暴露量の推計

1. 経皮吸収試験

フロリルピコキサミドを含有する農薬製剤で実施した経皮吸収試験結果は提出されていない。

暴露評価に用いる当該有効成分を含有する製剤及び希釈液の経皮吸収率については、当該有効成分の分子量が 500 超であり、かつ log Pow が 4 超に該当することから、農薬使用者への影響評価ガイダンスに基づき、10%を適用することができる判断した。

2. 圃場における農薬使用者暴露

フロリルピコキサミドを含有する農薬製剤で実施した圃場における農薬使用者暴露試験結果は提出されていない。

3. 暴露量の推計

申請された製剤について、I. の5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（別添1）に従って使用した場合の暴露量を予測式により推計した。推計に当たっては農薬使用者への影響評価ガイダンスに準拠した。

推計に用いたパラメータ等及び暴露量の推計結果を別添 2 に示す。

VI. リスク評価結果

I. の 5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量は、AOEL を下回っていた（別添 2）。

評価資料

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	2026	農薬評価書 フロリルピコキサミド（初版） 食品安全委員会、公表 URL : https://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kya20251022193&fileId=210
2	2019	XDE-659: Pharmacokinetics and Metabolism in CrI:CD(SD) Rats GLP、未公表
3	2019	XDE 659: Biliary Elimination and Tissue Distribution in CrI:CD(SD) Rats GLP、未公表
4	2015	Acute Oral Toxicity Study of XR-659 in Rats GLP、未公表
5	2016	Acute Dermal Toxicity Study of XR-659 in Rats GLP、未公表
6	2016	Acute Inhalation Toxicity Study of XR-659 in Rats GLP、未公表
7	2016	Skin Sensitisation Study of XR-659 by Local Lymph Node Assay in Mice GLP、未公表
8	2018	XR-659: 90-Day Dietary Toxicity Study with a 28-Day Recovery in F344/DuCrI Rats with an Assessment of Immunotoxicity, Neurotoxicity, in vivo Genetic Toxicity, and Toxicokinetics GLP、未公表
9	2016	CERTIFICATE OF ANALYSIS FOR TEST/REFERENCE/CONTROL SUBSTANCES 非 GLP、未公表
10	2018	XR-659: 28-Day Dietary Toxicity Study in F344/DuCrI Rats GLP、未公表
11	2015	CERTIFICATE OF ANALYSIS FOR TEST/REFERENCE/CONTROL SUBSTANCES GLP、未公表
12	2019	Analysis of XR-659 and Targeted Metabolites in Repeated-Dose Toxicity Studies GLP、未公表
13	2020	Validation of an UHPLC-MS/MS Assay for XDE-659 and Four Metabolites in Rat K ₂ EDTA Whole Blood Fortified with 10% Trichloroacetic Acid in Acetonitrile and Long-Term Stability Assessment GLP、未公表
14	2020	Validation of an UHPLC-MS/MS Assay for XDE-659 and Four Metabolites in Rat Urine and Long-Term Stability Assessment GLP、未公表
15	2019	XDE-659: A 13-Week Oral (Capsule) Toxicity Study in Dogs GLP、未公表
16	2018	XR-659: A Preliminary Palatability Study In Beagle Dogs 非 GLP、未公表
17	2018	XDE-659: A Preliminary Oral (Capsule) Dose Range-finding Study in Dogs 非 GLP、未公表
18	2016	Bacterial Reverse Mutation Test of XR-659 Using <i>Salmonella typhimurium</i> GLP、未公表
19	2019	XDE-659: Bacterial Reverse Mutation Test GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
20	2016	<i>In vitro</i> Mammalian Chromosomal Aberration Test of XR-659 in Human Peripheral Blood Lymphocytes GLP、未公表
21	2019	XDE-659: <i>In Vitro</i> Mammalian Cell Micronucleus Assay in Human Peripheral Blood Lymphocytes (HPBL) GLP、未公表
22	2019	XDE-659: A 2-Year Dietary Chronic Toxicity/Carcinogenicity Study in CD® Rats GLP、未公表
23	2018	Full Validation of an LC-MS/MS Assay for XR-659 in Rodent Diet. GLP、未公表
24	2018	XR-659: Dietary Reproduction/Developmental Toxicity Screening Test in CrI:CD(SD) Rats GLP、未公表
25	2018	XR-659: A 28-DAY ORAL TOXICITY STUDY IN CD® [CRL:CD® (SD)] RATS 非 GLP、未公表
26	2020	Analysis of XDE-659 and Targeted Metabolites in Rat Blood and Urine from a 2-Year Dietary Chronic Toxicity/Carcinogenicity Study in CD® Rats GLP、未公表
27	2019	XDE-659: A 18-Month Dietary Oncogenicity Study in Mice GLP、未公表
28	2016	XR-659: Dietary Range-Finder Study in Female F344/DuCrI Rats and Female CrI:CD1(ICR) Mice 非 GLP、未公表
29	2018	XR-659: 90 Day Dietary Toxicity Study in CrI:CD1(ICR) Mice GLP、未公表
30	2020	Analysis of XDE-659 and Targeted Metabolites in Mouse Blood and Urine from an 18-month Dietary Oncogenicity Study GLP、未公表
31	2019	XDE-659: Two-Generation Dietary Reproduction Toxicity Study in CrI:CD(SD) Rats GLP、未公表
32	2017	CERTIFICATE OF ANALYSIS FOR TEST/REFERENCE/CONTROL SUBSTANCES 非 GLP、未公表
33	2018	XDE-659: Dietary Developmental Toxicity Study in CrI:CD(SD) Rats GLP、未公表
34	2018	XR-659: Developmental Toxicity Probe in Female CrI:CD(SD) Rats 非 GLP、未公表
35	2018	XDE-659: Dietary Developmental Toxicity Study in NZW Rabbits GLP、未公表
36	2018	XR-659: Dietary Developmental Toxicity Probe Study in NZW Rabbits GLP、未公表
37	2017	CERTIFICATE OF ANALYSIS FOR TEST/REFERENCE/CONTROL SUBSTANCES 非 GLP、未公表
38	2018	XR-659: Stability with Analytical Method Validation in Rabbit Feed GLP、未公表
39	2023	フロリルピコキサミドの試験成績の概要及び考察 未公表

別添 1：適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（フロリルピコキサミド）

目 次

1. ベルペズフロアブル （フロリルピコキサミド 10.0 %水和剤）	2
2. ベルピクソフロアブル及びホクコーベルピクソフロアブル （フロリルピコキサミド 7.5 %水和剤）	2

1. ベルペズフロアブル

(フロリルピコキサミド 10.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	フロリルピコキサミドを含む 農薬の総使用回数
てんさい	褐斑病	1000~1500 倍	100~300 L/10 a	収穫 14 日前まで	3 回 以内	散布	3 回以内

2. ベルピクソフロアブル及びホクコーベルピクソフロアブル

(フロリルピコキサミド 7.5 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	フロリルピコキサミドを含む 農薬の総使用回数
きゅうり	うどんこ病 炭疽病 つる枯病 灰色かび病 菌核病	1000 倍	100~300 L/10 a	収穫 前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
かぼちゃ	うどんこ病						
メロン	うどんこ病						
すいか	うどんこ病						
ミント	灰色かび病 葉かび病 すすかび病						
なす	うどんこ病 灰色かび病 すすかび病						
ピーマン	うどんこ病						
いちご	炭疽病 灰色かび病 うどんこ病	1000~1500 倍	200~400 L/10 a	摘採 7 日前 まで	2 回 以内		2 回 以内
茶	炭疽病 新梢枯死症						

別添 2：暴露量の推計（フロリルピコキサミドを有効成分として含む製剤）

	目次	頁
1. ベルペズフロアブル （フロリルピコキサミド10.0%水和剤）		2
2. ベルピクソフロアブル及びホクコーベルピクソフロアブル （フロリルピコキサミド7.5%水和剤）		3

＊：本資料は、製剤のハザード区分に応じた防護装備も考慮して作成した。

1. ベルペズフロアブル（フロリルピコキサミド10.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	-
	種類・名称	フロリルピコキサミド水和剤 (ベルペズフロアブル)
② 評価対象有効成分		フロリルピコキサミド
③-1 AOEL		0.021 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		10 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 液体/散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		乳剤等

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液	1000	10

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	てんさい	1000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）						0.8	50.4	4	-	
1*	てんさい	1000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／3 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						8	79.7	38	-	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2. ペルピクソフロアブル及びホクコーペルピクソフロアブル（フロリルピコキサミド7.5%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	-
	種類・名称	フロリルピコキサミド水和剤(ペルピクソフロアブル)
② 評価対象有効成分	フロリルピコキサミド	
③-1 AOEL	0.021 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	7.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液	1000	10

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	きゅうり	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（立体） （手散布）						6.3	20.9	29.8	-	
2	かぼちゃ	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）						1.3	25.2	6	-	
2*	かぼちゃ	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.6	12	17.1	-	
3	メロン	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（立体） （手散布）						6.3	20.9	29.8	-	
4	メロン	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）						1.3	25.2	6	-	
4*	メロン	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.6	12	17.1	-	
5	すいか	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）						1.3	25.2	6	-	
5*	すいか	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.6	12	17.1	-	
6	ミニトマト	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（立体） （手散布）						3.2	20.9	15.4	-	
7	なす	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	1000	液剤_野菜（立体） （手散布）						3.2	20.9	15.4	-	

8	ピーマン	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	1000	液剤_野菜（立体） （手散布）						3.2	20.9	15.4	-	
9	いちご	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.9	37.8	23.4	-	
9*	いちご	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						12	59.8	56.9	-	
10	茶	1000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／2 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.4	50.4	20.8	-	
10*	茶	1000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／2 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						10.6	79.7	50.6	-	

¹⁾: AOEL 占有率＝反復暴露量 (μg ai/kg 体重/日) ÷ 1000 (μg/mg) ÷ AOEL (mg/kg 体重/日) × 100

²⁾: AAOEL 占有率＝急性暴露量 (μg ai/kg 体重) ÷ 1000 (μg/mg) ÷ AAOEL (mg/kg 体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重 55.1 kg を用いている。